

ふりがな 氏名	たきみや さおり <b>瀧宮 紗央里</b>	都道府県	<b>神奈川県</b>	
所属/肩書	<b>横浜市立幸ヶ谷小学校 教諭</b>			
私のESD活動	<b>地域の特産品で、地域・日本・世界を元気に！ ごまを通して、「健康」について考えよう</b>			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

『デジタルデバイド(情報格差)の改善による高齢者の生涯学習の促進』

前職の通信会社において、インターネットによる高齢者の生涯学習の推進に向け、高齢者向けのインターネット講座やサポートサービスを新規開発・提供した。昨今、インターネットが急速に普及し、日本のインターネット利用率は80%を超えている。一方で、「難しいから、どうせ自分にはわからない」、と考える高齢者は依然として多く、60歳以上のインターネット利用率は急激に下がり、インターネットのメリットを享受できていない高齢者が多く存在する。そこで、顧客層が比較的高齢である日本橋三越と提携し、店舗内に様々な文化を体験できる体験型カフェスペースを新設。カフェ内では、アート、食、音楽等、多岐に渡る文化を紹介し、高齢者は興味湧くものを店舗スタッフのサポートを得ながらインターネットで自ら調べる、という流れを作り出した。

結果、2014年のカフェオープン以降、あらゆる講座が継続的に開催され、多くの高齢者の学びの場となっている。成果として、従来の生涯学習は、学びたいという意思のある学習者が、大学や地域施設等に自ら足を運んで学習を進める流れが多い中、本取り組みは「カフェで休もう」というように、学習を目的としていない人に、体験しながら学習意欲を持たせ、そしてインターネットを通じて自ら学ぶ方法を知り、自然と学習者へと変容する、という新たな流れを作り出すことができた。

○「日本橋三越 はじまりのカフェ」 <http://hajimarinocafe.jp/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？

『ごまから世界へ。食料から見る世界の貧富格差と改善に向けて』

学区内に、創業150年以上の歴史を持つごま油工場があり、そのごま油は、横浜市神奈川区の名産にもなっている。化学的製法を一切しておらず、職人が焙煎、ろ過をし、手間をかけて作っている。そのため、一般的なごま油より高価であるが、そのおいしさは定評があり、子ども達にとって愛着のある食品となっている。私は、現在、五年生を担当しており、総合的な学習の時間において、子どもとともにこのごま油をトリガーに世界の貧富格差を学び、改善に向けて私たちにできることは何かを考えている。子どもたちは、ごまについて知るため、ごま油工場の社長に講演を依頼し、ごまがほぼ輸入に頼っていること、原産国はアフリカ等貧しい国が多いことを知った。そして、原産国の苦労を知るため、ごまの栽培に取り組んでいる。今後は、ごまの流通や、なぜ貧富の差が生まれるのか原因を調べ、私たちにごまを届けてくれている原産国が豊かになるために何ができるのか、考え、行動していきたいと考えている。

ESD全体の発展に向けて、今回のごまに関わる活動等、ESDの視点をふまえた活動のモデルケースを作り、展開していくことが、小学校教諭としてできる最大の貢献だと考えている。まずは、研究授業等で自らの授業を様々な人の目に見てもらい、洗練させ、より多くの人実践できる汎用的な型へと落とし込んでいきたい。